

平成 25 年 1 月 29 日

南の風 28

南部ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

今回はまず、神奈川県大会チャレンジカップについて触れておきます。テレビ放映もありましたのでご覧になった方も多かったと思います。結果を書きます。男子決勝はなんと豊田チームがブザービートで戸塚チームを32対30で破り、全国大会出場を決めました。正に劇的な結果でした。一方女子決勝は、若松チームが50対22で大正チームを破り、全国への切符を手にしました。両チームの選手の皆さん、スタッフ、保護者の皆様、本当におめでとうございます。

男子の決勝は、同じ横浜西部地区同士ということもあり、お互い手の内を知り尽くしての戦いだったと思います。1Q以外は一進一退のゲームとなり、最後の最後で豊田がさよならシュートを決めました。戸塚は本当に残念な幕切れとなってしまいました。しかし、白熱の素晴らしいゲームを展開し、観客を感動させてくれました。心から拍手を送ります。一方女子は、思わぬ大差がついてしまいました。立ち上がりから若松の激しいディフェンスが功を奏し、大正のオフェンスのリズムを崩しました。2Qはオフェンスの流れを掴みかけた大正でしたが、3Q、4Qは再び、若松のディフェンスを攻めきることができなくなりタイムアップを迎えてしまいました。大正にとっては大変残念な結果になりましたが、この1年間、県内の大会では無敗という素晴らしい成績を残し、関東大会では1位リーグ準優勝という輝かしい結果を残しました。心から拍手を送りたいと思います。

豊田チームと若松チームの皆さん、神奈川県代表として全国大会での活躍を心より祈っています。全力でがんばってください。

さて、チャレンジカップの最終日を見た感想を書きます。「どのチームのどのプレイがどうだ」ということではありません。まずオフェンスです。1対1の基本の繰り返しが大切です。ボールのもらい方から、もらった瞬間のプレイのセレクトです。もらった瞬間はもちろんショットの意識です。次にミニバスの場合、もらった瞬間、ショルダーアタック（オフアームの手の使い方、軸足のツイストを含む）からのドライブイン、ワンドリブルジャンプシュートを繰り返すことが重要です。ドライブインはブラッシングすることが基本中の基本となります。常に攻めることです。できれば練習の時からヘルプサイドのディフェンスを意識させ、ヘルプディフェンスとの1対1も視野に入れます。チームの実態や構成メンバーによって、タクティクスは違ってくるでしょうが、1対1の繰り返しは非常に重要です。

次にディフェンスです。もっと5人で守る意識を徹底させたいです。ゾーンをやれといっているわけではありません。マンツーマンを指導する時、最終目標を選手に示すことが大切です。チームに「5人で守るんだ」という気持ちを持たせることです。1人が抜かれそうになったらヘルプに行き、それと同時にローテーションする、またラン&ジャンプするなどです。「5人で守る」という中に、1線、2線、3線の考え方があるのです。もちろん簡単に身に付くものではありません。1年間かけるつもりやりたいものです。全日本の選手でも難しいのですから。しかし、この考えをミニ、中学、高校とつなげていくことが将来につながるのではないのでしょうか。1対1のフットワークを鍛えることもある程度必要ですが、過度にやることは膝や足首の負担が増えます。「**5人で守る**」がキーワードです。また次号で。